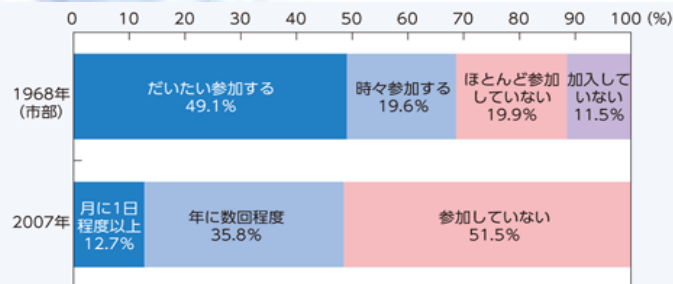


目的： 少子高齢化を背景とした社会問題に焦点をあて、多様な世代が参加できるまちをどう作るか学び、企画を考え、実践します。それにより学生の課題解決力の向上を目指します。

取組： 子どもや親子、高齢者を対象として、まちの大きな集いのイベントや身近な地域での小さな集い場・居場所づくりの企画を立案し、実施します。

宍戸ゼミの活動の社会的背景

- ① 家族関係の縮小（未婚化・共働き化など）
- ② 子どもの遊びの変化
- ③ 若年層の地域への関わりの薄さ
- ④ 地縁組織（町内会など）の担い手の高齢化
- ⑤ 高齢者の社会的孤立の高さや「閉じこもり」
- ⑥ コロナ禍での地域行事の減少



資料：内閣府「住民自治組織に関する世論調査」（1968年）、「国民生活選好度調査」（2007年）より作成

町内会・自治会への参加の変化



親の状態と小学生の孤立の割合

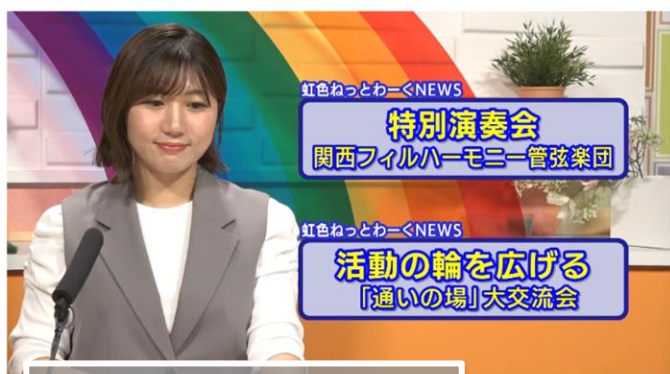
地縁組織だけでなく、民間企業や商店街、NPO、ボランティア団体、公的機関と連携して、ゼミの学生がオリジナルの企画を立て、地域に繋がりをつくる活動を展開しました。



ニトリモールや商店街とコラボした
子どもへの職業体験企画



数千人を集客するまちの大型の
イベントにどう学生がコラボレーションで
できるか検討し、ショート動画づくりで広報
支援を行いました。



市内の集い場主催者の横のつながりを作る
集い場サミットを年に2回リアクトで開催し、テレ
ビのニュースに取り上げていただきました。

今年度のサマースクールでは、小学校の
協力を得て、タブレット端末で募集し、コ
ロナ禍前の参加者数を超えました。

